

弥彦村農業機械利用組合（新潟県弥彦村）

組織の概要

- 村内3つの農事組合法人により、令和2年に設立
- 農業機械と施設等の共同利用により、耕作面積の拡大に伴うコスト削減を目指して組織化
- 小麦や大豆・枝豆等の機械の共同利用とともに、一部共同で作業を行っている。



生産概要

- 【作付面積】水稲：162.6ha、小麦：22.4ha、大豆：26.7ha、枝豆：13.2ha（R6年産）
- 2年2作の輪作（小麦→大豆）、ブロックローテーション有り
- 組合を構成する村内3法人は、水田麦・大豆産地生産性向上事業等を活用し、需要に応じた生産と水田の高度利用等を図るため、小麦の作付面積を徐々に拡大。（R2年産：4.5ha → R6年産：22.4ha）



取組のポイント

<需要に応じた生産を徹底>

- 新潟小麦の会（実需者や生産者、関係機関で構成する任意組織）の活動に参加し、実需者の需要量や求める品質・品種等の情報を収集
- 実需者の需要量に対して、供給量が不足することから作付面積の拡大を図るとともに、県内で広く生産される「ゆきちから」に加え、製パン適性の高い「夏黄金」を導入し、実需者の求める品種を生産

<団地化の推進や営農技術・機械導入による生産性向上>

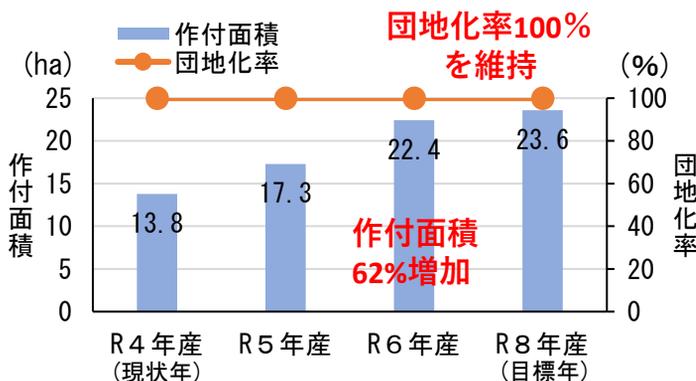
- 作付ほ場の団地化や作業計画等の検討を実施し、生産の効率化を推進
- 新規に小麦を作付するほ場には、カットブレーカーを施工し、排水性を向上
- 生産拡大に対応して適期作業を実施（R5年度はブームスプレーヤを導入）



取組成果

<需要に応じた生産拡大を実践(小麦)>

- 既存の団地近隣の農地と調整することで、作付面積（=団地化面積）を拡大しつつ、団地化割合を維持



<安定した収量の確保(小麦)>

- 排水対策等の生産性を向上する営農技術に取り組むことで、県平均・県目標収量以上の収量を安定して実現

